

協会事業

光関連団体国際会議（IOA）

光関連団体の国際連携組織である IOA (International Optoelectronics Association) の 2018 年の年会在、6 月 25 日、KAPID（韓）主催で韓国一山において開催された。これに当協会から小谷専務理事他 1 名が参加したので、以下に概要を報告する。

IOA は 1996 年に当協会がホストとなり ICOIA (International Coalition of Optoelectronic Industry Associations) として始まり、9 年前から IOA と名称を変えて、年会は今年で通算 23 回を数える。メンバー数は発足時には 4 団体であったが、現在は、図 1 に示す 9 団体となっている。

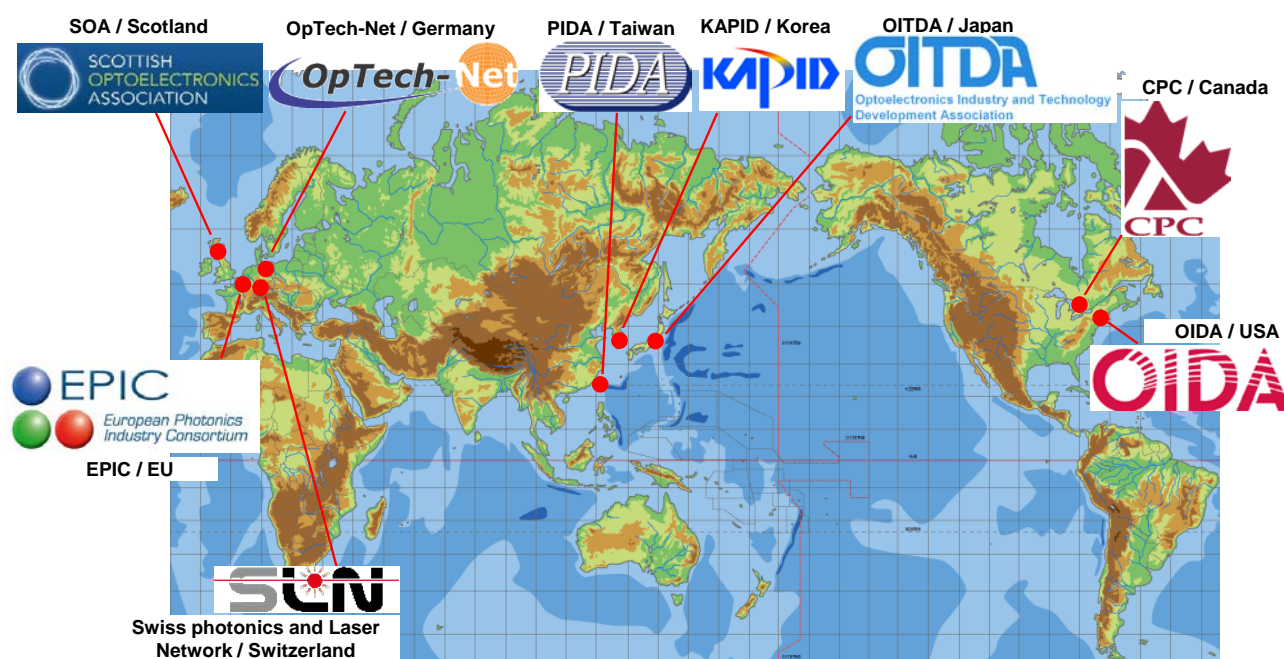


図 1 IOA 参加組織（2017 年度末現在）

今回の参加者は、IOA メンバーである Swiss Photonics（スイス）、PIDA（台湾）、KAPID（韓国）、OITDA（日本）の 4 か国／地域 8 名の他、オブザーバとして、Photon Delta（オランダ）の 1 名が参加した。また、メンバーの OIDA（米国）及び EPIC（EU）は、今回会議には出席できなかったが、各国、地域での産業動向をまとめた資料を送ってきており、資料提出での参加となった。

会議は、会場となった KINTEX（KOREA INTERNATIONAL EXHIBITION & CONVENTION CENTER）内の会議室において、これら 5 か国／地域の参加者から「各国／地域の光産業動向と昨年の活動」、「各国／地域の技術ロードマップと技術開発の動向」を中心に報告があり、活発な議論が行われた。当協会からは、2017 年度の光産業動向調査結果と活動の概要について報告するとともに、2017 年度に作成した AI、IoT 時代の光技術戦略について概説した。また、PETRA にて推進している国家プロジェクト Integrated Photonics-Electronics Convergence System の概要と進捗についても紹介した。

各国の主要な報告を、以下に概述する。

KAPID からは、世界の光産業の動向と韓国企業のシェアに関する調査結果について報告があった。世界

の光産業も製品・技術分野による差があるものの全体としては安定した状況にあり（図2）、今後緩やかな拡大が見込めることが紹介された。

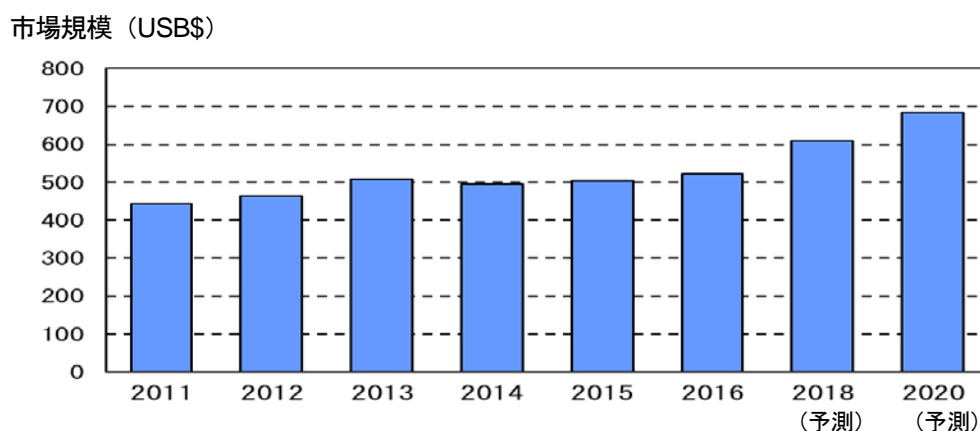


図2 世界の光産業の市場規模 (単位: USB\$) (KAPID 発表資料より光協会で作成)

また、OIDA (米国) からは、世界の光産業での雇用者数 (図3)、米国でのベンチャービジネスへの投資資金推移 (図4) という興味深い二つの指標が示された。

光産業雇用者数は、日本、韓国、中国など東アジアが欧米に比べ、その数が多く、光産業の生産が東アジアを中心とする地域で活発であることがうかがえる。

また、米国でのベンチャー投資資金は総額が着実に増えているが、従来の主だった光産業には回っていないことが見て取れる。

このような中、光産業において新しいイノベーションを創出していくことの重要性が各国で認識されており、日本ではあまり取り上げられていないが、海外ではマイクロ LED が注目を浴びていることなどが話題となった。

最後に、次回年会を、2019年4月にSOA (スコットランド) 主催によりグラスゴーで開催することが合意され、閉会した。

Photonics employment is ~3.7M

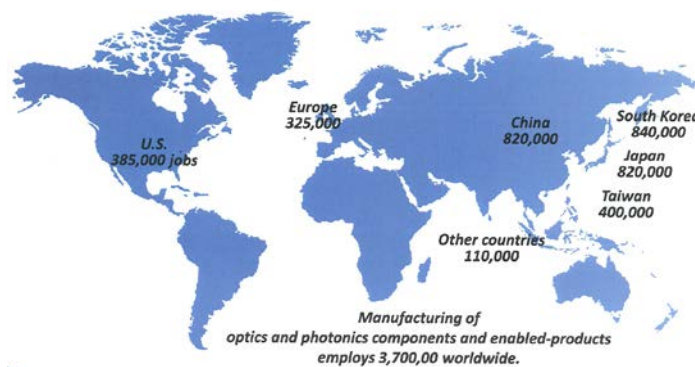


図3 世界の光産業雇用者数 (OIDA 発表資料より抜粋)

Where is VC money going today?

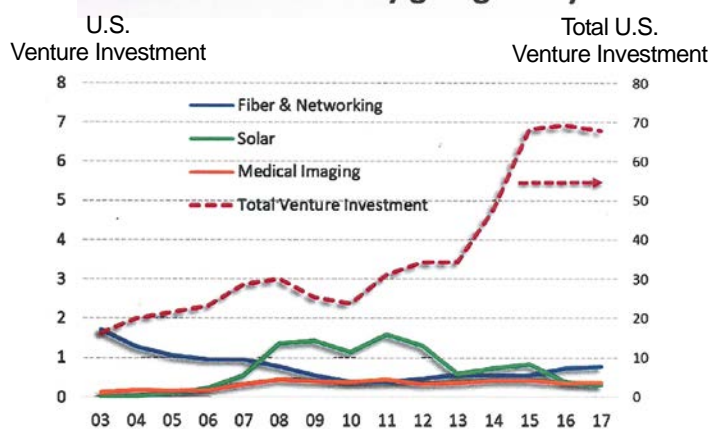


図4 米でのベンチャー投資資金推移 (単位: USB\$) (OIDA 発表資料より抜粋)